

11・1労働者集会へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2015年10月24日
No.332

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
<http://www.zengakuren.jp/>

10・27京大ストライキへ! 作部同学会委員長の10・21発言

どうも皆さん、お疲れ様です。京都大学全学自治会同学会中央執行委員会の委員長をやっている作部羊平と申します。今日は平日ですけども、皆さんと連帯して、世界ではじまっている戦争の全てを止めていく闘いに、みなさんと団結をしてやり抜いていくために今日ここにやって来ました。よろしくお願いします。皆さん、本当に戦争が私たちの身近に、具体的に始まっています。いろんな大学において軍事研究が始まっている。あるいは学生に対して経済的徴兵。こんなことがいわれている。その中で今、大学がどういう立場をとるのか。それが本当に問われている時代だと思います。

いろんな大学において自治会が潰され、教授会の権限が奪われていって、そうやって逆らえなくなっていく。ビラ一枚まくことも出来ない。そんな大学がどんどん増えている。みなさん、こうやって私たちが自分たちの思いを表現できなくなったとき、かつての戦争は始まっていったんじゃないですか?

そういう時に今の大学は、どういう立場をとっているのか。私の京都大学の総長は、「戦争しないゴリラに学べ」こんなことをいっています。しかし、その実態はどうなっているのか。昨年11月、私たち同学会中央執行委員会は大学キャンパスに入っていた公安警察を摘発して追放しました。この闘いに水を差したのが、今の山極寿一総長です。彼は公安警察に対して、「今後学内での捜索に協力したいんだ」そして公安警察を摘発した私たちの闘いに対して、「学生・教職員の活動は世間を騒がせるものではあってはならないんだ」こういったことを言ったわけです。結局のところ、戦争を容認して国家の弾圧を容認して、そして実際に



推進していく。そういったものでしかない。

この山極総長に、「戦争反対の立場を出せ。」こういう立場で私たちは約半年間追及してきたことに、全て断って私たちを非公認化してきた。そのことに対して、おとつい私たちは決別を、大学におけるストライキ決議を大学当局に叩きつけてきました。私たち同学会中央執行委員会は、10月27日火曜日の午後1時からストライキに立ち上がります。私たちのストライキは、京都大学のあり方を変えるようなそういう小さな目標ではありません。この世界の全ての戦争を止めていくために、私たちがすべての大学のまず先頭にたってストライキを行っていく。団結をつくっていく。全国で闘っている労働者と団結していく。自衛隊と団結していく。そして世界中で闘っている仲間と連帯していく。そういう、大きな大きな実際にすべての戦争を止めるような団結をつくって行く闘いです。

ここで今示された、実際に4名の仲間を奪還した力。国家権力とガチでやり合うような団結が今ここで示された。それを私たちは、京都大学の中でストライキという形で一つ形にしていきたい。そしてそれがあの国会前で示されたものと、団結とつながって自らの職場から、自らのキャンパスから次々と火の手が上がっていく。その火蓋を切って落とす。そういう闘いにしていきたいと思います。皆さん団結して頑張りましょう。必ず成功させます! よろしくお願いします! この成功をもって11月1日の集会に総決起したい! そういう風に思ってます。みなさん、団結して頑張りましょう! ありがとうございました。

京大・副学長情報公開連絡会に50名が結集！

京大で10月15日に開かれた副学長情報公開連絡会は、約50人の結集で大成功しました！連絡会の開催は安保法制が成立して以降初であり、杉万前副学長が逃げてきたあらゆる問題、そして逃げたこと（9月30日付けで突如辞任）自体を追及する場として勝ち取られました。同学会中央執行委員会が積極的に宣伝し、当日は多くの学生の怒りが結集しました。北野正雄副学長（代行）を相手に1時間半を超える非常に長い議論が行われ、京大同学会運動の現時点での一つの到達点となりました。

そもそも今年度前期以降は、大学当局による様々な自治破壊的行為や、社会情勢に対する大学当局の立場について、副学長連絡会で多くの学生と団体が追及してきました。具体的には、同学会執行委員会の非公認化、総合人間学部と学務部による仮承認サークル非公認化と分断攻撃、軍事研究への態度などについてです。そうした中、7月末には吉田寮に対して秋季以降入寮募集停止が大学当局から一方的に通知され、それに対して吉田寮生が急遽副学長を呼び出して交渉を行うなど、学内は騒然としました。

それらの問題に対する当時の杉万俊夫副学長による答えは無責任極まりないものでした。同学会問題については、告示が繰り返し出されていることに正当性があるとした一方で、公認している同学会の活動は知らないと言いました。仮承認サークルについて、過去に犯罪者がいた、あるいは関係していた団体を学務部として公認することはできない（※この発言は後に撤回した）とする一方で、具体的な事件については知らない、知らないからといって非公認化は取り下げない、と言いました。軍事研究について、学内でその対応を検討するワーキンググループが発足されているが、その責任者などについては言えないとしました。吉田寮問題については、その交渉の中で総長をトップとする理事会で入寮募集停止について決定されたことが副学長によって暴露されましたが、総長をはじめとする理事会メンバーを呼び出すことは頑なに拒否しました。そのうえ、杉万副学長は9月に予定されていた連絡会を延期したうえ中止し、自身は9月30日付で辞任しました。度重なる激しい学生の追及に対して無責任な発言を繰り返した末に、辞任したのでした。

そうした中でようやく開かれた連絡会。まず連絡会の始めに作部委員長が時代認識を語り、大学の立場を問いました。小さな会議室に入りきらないほどの参加者もよく聞いており、これによって会議室が単なる報告を行う場所から政治を堂々と議論できる場となりました。

作部委員長は、「すでに世界で戦争が始まっており、日本はそれへと参加しようとしている。大学においても軍事研究が始まり、公安警察がしのび込み、スパイが作られていた。これら一連の情勢について大学当局は立場を示してほしい、そうでなければ帰れない。」



と徹底追及。少し圧倒された様子の副学長は淡々と関係ない報告を始めようとしたが、作部委員長は連絡会の中で立場を示すよう念を押しました。

しかし北野正雄代行は最後まで、「個人のアピールとしてはわかるが、大学としての立場は示せない」と、戦争問題のみならず、その他多くの学生生活破壊についても黙認・現状追認しました。

今回の副学長連絡会で最も重要だったことは、社会情勢や学内問題についての大学当局の立場が非常に不鮮明であることを暴くと同時に、連絡会の場を50名もの学生に対する大アジェーションとイデオロギー闘争の場に作り変え、学生には力があることを示しきったことです！

軍事研究などについて北野副学長が「いろいろな意見がある」ということに対して、作部委員長が「色々な意見があると言っている間に、実際に軍事研究が始まり、公安警察が学内に入り込んでいる」ということを明らかにし、さらに大学の自治破壊的行為を糾弾しました。北野副学長自身が「戦争はあってはならない」と言うほど、現在の大学の在り方のおかしさが際立ったのです。「色々な意見」は確かにあるでしょう。しかしそれらが全く議論されないうちに物事（しかも自治破壊と軍事研究！）は進んでいくのです。学内の諸問題が噴出した今回の連絡会に、時代認識を持ち込み大学の立場を追及したことの意義は大きい！

このような大学当局の無責任な在り方に対しては、やはり教職員・研究者・学生たちが大学の支配権をめぐって闘わなければいけません。同学会中央執行委員会はそのために10月ストライキを提起しています。ストライキは現在の支配体制（直接的には管理教育、もっと大きく言えば軍事研究や戦争動員）には従わないことを社会に示し、誰とどのように生きていくかを表現する手段です。私たちは、全国の学生・市民・労働者と共に、10月ストライキを成功させる決意です！

【当面する行動方針】

○ “民主労総ゼネスト連帯！” 10.31労働者国際連帯集会

10月31日(土)午後1時30分開会／ビデオ上映

場所：千葉商工会議所第1ホール(千葉中央ツインビル2号館14階)

主催：11.1全国労働者総決起集会実行委員会

○ “闘う労働組合を甦らせよう！” 11・1全国労働者集会

11月1日(日) 正午～ 東京・日比谷野外音楽堂にて(集会後に銀座デモ)

呼びかけ：全日建関西地区生コン支部／全国金属機械労組港合同／動労千葉／国鉄闘争全国運動